

## 平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	
	<p>－「文化ビジネスエキスパート」育成プロジェクト－ 地域の魅力や日本の感性をビジネスにつなげ、世界に発信し地域を創造する人材育成プログラムの研究</p>
2 研究の概要	
	<p>諏訪の伝統的文化や伝統的産業を深く理解することによって、主体的に地域の課題を発見し、地域と協働して解決に取り組み、グローバルに発信することができる「文化ビジネスエキスパート」としての資質・能力を伸長させることにより、地域に貢献し、地域を創造する人材を育成することを研究の目的とした。</p>
3 平成30年度実施規模	
	<p>全校生徒を対象に実施した</p>
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>1 「文化ビジネスコーディネーター」育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人による講演会</li> <li>② 同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義</li> <li>③ 「諏訪実ミニメッセ」の開催</li> <li>④ 「文化ビジネスプロジェクト」の企画作り</li> <li>⑤ プレゼンテーション能力の育成</li> </ul> <p>2 「文化ビジネスディベロッパー」育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 商業・服飾の専門科目の指導内容に対応させながら「文化ビジネス」について学習を進める。 ア 「商品開発とイベント企画」 イ 「地域活性化」</li> <li>② 「文化ビジネス」向け商品・サービス・イベントの企画・開発案作り</li> </ul> <p>3 「文化ビジネスプロデューサー」育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 文化ビジネスの要素を取り入れた「諏実ショッパーズ」「キッズビジネスタウンすわ」「学習成果発表会」の企画立案・実施を課題研究の授業でおこなう。</li> <li>② 韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信</li> <li>③ 服飾科における「文化ビジネスプロジェクト」に関する取組 ア 「ウォーキング講習会」「照明舞台演出講習会」 イ 「ファッションデザインコンクール」 ウ 「NAGANOデザインフェスタ」</li> <li>④ 英語コミュニケーション能力の向上</li> </ul>
第2年次	<p>1 「文化ビジネス」と「伝統的文化や伝統的産業の魅力の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人による講演会</li> <li>② 同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義</li> <li>③ 「諏訪実ミニメッセ」の開催</li> <li>④ 「伝統的文化や伝統的産業の魅力」の発表（諏実タウン）</li> </ul> <p>2 「文化ビジネス」への取り組み</p>

	<p>① 商業・服飾の専門科目の指導内容に対応させながら「文化ビジネスエキスパート」育成のため「文化ビジネス」について学習を進める。  ア 「商品開発とイベント企画」 イ 「財務諸表からみる企業経営」  ウ 「ICTを活用したプロモーション戦略」  エ 「伝統工芸と現代工芸」 オ 「文化とサービス産業」</p> <p>② 京都視察研修</p> <p>③ 「文化ビジネスコンペティション」の実施（文化ビジネスプロジェクト）</p> <p><b>3 「文化ビジネスエキスパート」として、「文化ビジネス」のプロデュース</b></p> <p>① 既存の「模擬株式会社S Jカンパニー」を服飾科も含めて立ち上げ直し、「文化ビジネスプロジェクト」を展開し、「文化ビジネス」としての取組活動の発表の場をプロデュースする。「文化ビジネスプロジェクト」として、「諏実ショッピングパズ」「キッズビジネスタウンすわ」「学習成果発表会」の企画立案・実施を課題研究の授業でおこなう。</p> <p>② 韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信</p> <p>③ 「文化ビジネスプロジェクト」に関する取組  ア 「ウォーキング講習会」「照明舞台演出講習会」  イ 「ファッションデザインコンクール」 ウ 「NAGANOデザインフェスタ」  エ 「商品開発・イベント企画」 オ 「ウェブコンテンツ」の作成</p> <p>④ 英語コミュニケーション能力の向上</p>
第3年次	<p><b>1 文化ビジネスコーディネーターの育成</b>  ア 地域伝統文化・伝統産業に関わる産業人・文化人による講義  イ 同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」講義  ウ 地元企業による「諏訪実ミニメッセ」の開催</p> <p><b>2 文化ビジネスディベロッパーの育成</b>  ア 商品開発 諏訪地域の特性を活かした商品開発（繭の花飾りの製作）  イ 商品開発 諏訪地域の特性を活かした商品開発（かりんの匂い袋の開発）</p> <p><b>3 文化ビジネスプロデューサーの育成</b>  ア 課題研究（諏実タウンでの販売・展示）  イ 課題研究（ファッションショー）</p> <p><b>4 学校設定教科「文化ビジネス」学校設定科目「文化ビジネス研究」の研究開発</b>  ア 文化ビジネス研究  ① 商品開発とイベント企画（3講座） ② 玉繭シルクの恋するお守り  ③ ノルウェーと諏訪のイベント ④ ICTを活用したプロモーション戦略  ⑤ 企業パンフレット作成 ⑥ 諏訪紹介パンフレット・ビデオ作成（2講座）  ⑦ 諏訪観光マップ作成（3講座） ⑧ 人間活動と諏訪湖</p> <p><b>5 イノベーター・リーダーの育成</b>  ア 京都文化ビジネスリーダー研修  イ 韓国リーダー研修</p>

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

2年次に学校設定教科「文化ビジネス」とその学校設定科目として「文化ビジネス研究」を設置し、平成29年度入学生から実施する。3年次に学校設定科目「イングリッシュアライブB」商業科・会計情報科2年次に「イングリッシュアライブA」を設置する。

## ○平成30年度の教育課程の内容（平成30年度教育課程表を含めること）

別紙参照

## ○具体的な研究事項・活動内容

### 1 文化ビジネスコーディネーターの育成

商業と服飾の技術を備え、諏訪や長野県各地の伝統的文化や伝統的産業を深く理解し、それらの魅力や強みに気づくことで、それらを結び付ける具体的な方策を提案する力を育成するため、講義、グループワーク、協働学習、プレゼンテーションを中心とする学習プログラムの研究開発を行った。

ア 地域伝統文化・伝統産業に関わる産業人・文化人による講義

【対象学年：科目 1年生 商業科・会計情報科：ビジネス基礎 服飾科：生活産業基礎】

- ・「諏訪の文化と商品開発」 スワデザイナーズユニオン 平林善雄氏
- ・「諏訪の信仰と諏訪大祭 御柱の歴史」 八剱神社宮司 宮坂清氏
- ・「諏訪伝統のおもてなし」 RAKO 華乃井ホテル社長 白鳥和美氏

イ 同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授による「京都型ビジネス」講義

【対象学年：科目 1年生 商業科・会計情報科：ビジネス基礎 服飾科：生活産業基礎】

「文化ビジネス」を構築する手法について知識の深化を図るために実施した。伝統産業や伝統文化を新たな発想で現代の産業とコラボレーションして魅力を作り出す手法を学んだ。

ウ 地元企業による「諏訪実ミニメッセ」の開催

【対象学年：科目 1年生 商業科・会計情報科：ビジネス基礎 服飾科：生活産業基礎】

地域産業の理解を深めるために、地元企業28社が参加し、地域産業の強みと新たな取組について製品展示と説明を受け、製品製作等の体験を行う本校主催の「諏訪実ミニメッセ」を開催した。生徒は各ブースを訪問し、担当者とのやり取りからレポートを作成した。

### 2 文化ビジネスディベロッパーの育成

ア 商品開発 諏訪地域の特性を活かした商品開発（繭の花飾りの製作）

【対象学年：科目 1年生 服飾科：生活産業基礎】

3年生のファッションショーで使用するアクセサリとして繭の花飾りを1年生が製作する取組を行った。3年生は「課題研究」で、7月のファッションショーに向けて衣装のデザインと製作に取り組む中で、地元岡谷の伝統産業である製糸に着目し、「シルクを活用した作品群」を作ることを目指した。しかし、シルク生地を全員が用意することは困難であり、生地を用意できない生徒は繭から作った花飾りを衣装にコーディネートすることにした。そこで、その花飾りは1年生の「生活産業基礎」で製作することになった。3年生からオーダーを受け、聞き取り調査を行い、先輩が満足できるものを作ろうと工夫して製作した。また、本校の諏実タウンの中でシルクショップや制作体験コーナーを企画・運営することで、経営理念の考え方や顧客の目線に立ち、顧客満足度を上げる視点を学んだ。

イ 商品開発 諏訪地域の特性を活かした商品開発（かりんを活用した匂い袋の開発）

【対象学年：科目 3年生 会計情報科：マーケティング】

3年生のマーケティングの授業では、諏訪の特産品であるかりんの、食べ物としてではなく「匂い」に着目し、かりんの匂い袋を製作するとともに、伝統産業の岡谷シルクの活用を合わせて行った。シルクについては蚕の餌である「桑」に着目して、桑の木から和紙を作り説明書きに使用することで諏訪らしさを表現しようと考えた。匂い袋の開発は商業科、袋の製作は服飾科に依頼するというコラボレーションを実現し、開発した商品は諏実タウンで販売した。開発、製作にあたっては自分の意見を主張するだけでなく他人の意見を聞いてより良いものを目指した。

### 3 文化ビジネスプロデューサーの育成

商業と服飾の知識と技術を備え、少子高齢化やグローバル化などをはじめとする地域の課題を見出し、その解決に向けた探究的な実践活動を通して、コミュニケーション力を活かしコンセプトを提案し、地域産業や地域社会と協働して主体的に取り組み、表現力・発信力・マネジメント力を育成する学習プログラムの研究開発を行った。

ア 課題研究（諏実タウンでの販売・展示）

【対象学年：科目 3年生 商業科・会計情報科：課題研究】

主体的に取り組む力・発信力・マネジメント力を育成するために、「諏実タウン」と呼ばれる販売実習とキッズビジネスタウンを実施した。販売実習では、仕入、販売、宣伝活動を行い、その過程において地域の方々とコミュニケーションを取りながら企画・運営を行った。「文化ビジネス研究」の学習成果を発表する場も設定した。

イ 課題研究（ファッションショー）

【対象学年：科目 3年生 服飾科：課題研究】

「地元産業のシルク」を取り入れたファッションショーを行った。諏訪・長野らしさをどのように表現し、魅力をどう伝え発信するかを考え、一連のステージとして統一感を保つために互いにコミュニケーションを図り、企画・運営を行った。

### 4 学校設定教科「文化ビジネス」学校設定科目「文化ビジネス研究」の研究開発

商業と服飾の知識と技術を備え、「文化ビジネス」の取組方法の知識を活かし、探究的な活動により、諏訪の伝統的文化や伝統的産業から現代社会に受け入れられる商品・サービス・企画等を「文化ビジネス」として開発・提供・発信する、学校設定教科「文化ビジネス」学校設定科目「文化ビジネス研究」を設定した。商業科と会計情報科と服飾科の生徒が連携して、一つの課題に対して探究的な活動に取り組むことで、教科横断的な視点やより深い探究力を育成する教科・科目内容の研究開発を行った。

ア 文化ビジネス研究（2単位、8テーマ、13講座）

【対象学年：科目 2年生 商業科・会計情報科・服飾科：文化ビジネス研究】

今年度から、商業科と会計情報科と服飾科の共通履修とし、生徒自身が主体的に取り組む教科横断的な学びを行った。一例として、「恋するお守り」講座では、玉繭によるお守りを製作するために岡谷蚕糸博物館等で聞き取り調査を行い、生地の染色は外部講師の指導を受けて諏訪の草木を活用し自分たちで行った。紹介パンフレットを作成し、情報発信にも取り組んだ。

### 5 イノベーター・リーダーの育成

「京都文化ビジネスリーダー研修」「韓国リーダー研修」を通して、チームで目標を定め、目標に向かって動機づけし、目標を達成するためにチームのコミュニケーションを円滑化させ、人間関係を良好にし、結束させることのできる力と、現状に甘んじることなく、戦略とビジョンを示しその方向に向かってチームを導いていくことができる力を育成する学習プログラム・研修内容の研究開発を行った。

ア 京都文化ビジネスリーダー研修

【対象学年 2年生 商業科・会計情報科・服飾科希望者】

2年生希望者に対し、同志社大学大学院における講義をはじめとする京都文化ビジネスリーダー研修を実施した。「文化ビジネス」の考え方につながる、「京都型ビジネス」に実際に取り組んでいる産業人講師の講義やグループワークによる意見交換を通して、「文化ビジネス」の考え方や手法について知識を深めた。また、「京都型ビジネス」のワークショップや企業視察、フィールドワーク中で、「京都型ビジネス」についての理解を深めた。京都研修後、研修内容を2学年全体で共有するため報告会を実施した。

イ 韓国リーダー研修

【対象学年 3年生 商業科・会計情報科・服飾科希望者】

3年生希望者に対し、韓国梅香女子情報高等学校との協働授業と企業視察を行った。伝統的文化が現代社会に色濃く残る韓国での生活を経験し、文化と習慣の類似性と相違性の両面を肌で感じるにより、「文化ビジネス」を実践的に学ぶ機会とした。協働授業の中でグループ討議をおこない、かりんの匂い袋の韓国における使用方法について話し合った。帰国後、研修内容を3学年全体で共有するため報告会を実施した。

## 5 研究の成果と課題

### ○実施による効果とその評価

生徒の理解度や生徒の変容を測定するため、アンケート調査と文化ビジネスエキスパートに必要な資質・能力を評価項目としたルーブリックを作成し自己評価を実施した。評価は4段階とし、「2」を基準とした。調査対象は、平成30年度全校生徒とし、それぞれの学習プログラムにおける生徒の変容を調査・分析する。

#### 1 文化ビジネスコーディネーターの育成

アンケート調査により、講義や諏訪実ミニメッセの成果をまとめたりしたことで、「伝統的文化や伝統的産業を結び付ける具体的な方法を提案する力」が高まったと回答した生徒が54.6%になった。講義や諏訪実ミニメッセの成果をレポートにまとめることで、文化や産業への理解を深める意識を高めることができたと考える。「コミュニケーション力」については、高まったと回答した生徒が45.7%であった。参加企業とのやり取りをすることで、コミュニケーション力の意識を高めることができたと考える。

#### 2 文化ビジネスディベロッパーの育成

ア 商品開発 諏訪地域の特性を活かした商品開発（繭の花飾りの製作）

	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
②主体的に取り組む力	11.4%	45.2%	65.7%	41.9%	22.9%	12.9%	0.0%	0.0%
⑤創造力	8.6%	35.5%	65.7%	35.5%	25.7%	29.0%	0.0%	0.0%

レベル4の増加では、望まれる資質・能力の「創造力・実践力」においては、「主体的に取り組む力」が33.8%、「創造力」が26.9%の増加と生徒の変容が見られた。また、10月の段階でレベル3以上を71%、対象生徒全員が「できる」と評価している。社会との接点や顧客の目線を意識した商品開発に取り組むことで主体性や創造力の評価を高めることができた。

イ 商品開発 諏訪地域の特性を活かした商品開発（かりんを活用した匂い袋の開発）

	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
②主体的に取り組む力	24.3%	44.4%	54.1%	50.0%	21.6%	5.6%	0.0%	0.0%
⑤創造力	8.1%	30.6%	62.2%	52.8%	24.3%	16.7%	5.4%	0.0%

レベル4の増加では、望まれる資質・能力の「創造力・実践力」においては、「主体的に取り組む力」が20.1%、「創造力」が22.5%の増加と生徒の変容が見られた。また、10月段階でレベル3以上を83.4%、対象生徒全員が「できる」と評価している。服飾科の生徒と連携し、企画と製造の視点を意識した商品開発に取り組むことで、主体性・創造力を高めることができた。

#### 3 文化ビジネスプロデューサーの育成

	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
②主体的に取り組む力	22.2%	50.9%	67.8%	43.6%	10.0%	4.5%	0.0%	0.9%
④発信力	13.3%	30.0%	57.8%	55.5%	28.9%	13.6%	0.0%	0.9%

ア 課題研究（諏実タウンでの販売・展示）

レベル4の増加では、望まれる資質・能力の「取り組む力」「発信力」においては、「主体的に取り組む力」が28.7%、「発信力」が16.7%の増加と生徒の変容が見られた。また、10月の段階でレベル3以上を85.5%、対象生徒全員が「できる」と評価している。「諏実タウ

ン」を全校生徒で企画・運営することで、課題研究や文化ビジネスの成果や主体的に学ぶ姿勢を地域に発信することができた。

#### イ 課題研究（ファッションショー）

	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
②主体的に取り組む力	41.2%	61.8%	38.2%	38.2%	20.6%	0.0%	0.0%	0.0%
④発信力	14.7%	38.2%	50.0%	47.1%	29.4%	14.7%	5.9%	0.0%

レベル4の増加では、望まれる資質・能力の「取り組む力」「発信力」においては、「主体的に取り組む力」が20.6%、「発信力」が23.5%の増加と生徒の変容が見られた。また、7月の段階でレベル3以上を85.3%、対象生徒全員が「できる」と評価している。地域産業を取り入れ、地域らしさを発信するためのファッションショーを企画・運営することで、課題研究の成果や主体的に学ぶ姿勢を地域に発信することができた。

#### 4 学校設定教科「文化ビジネス」学校設定科目「文化ビジネス研究」の研究開発

##### ア 文化ビジネス研究

	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
①コミュニケーション力	6.4%	15.6%	56.4%	67.5%	37.2%	16.2%	0.0%	0.6%
②主体的に取り組む力	8.7%	20.1%	53.5%	62.3%	37.8%	14.9%	0.0%	2.6%
③協力して取り組む力	8.7%	27.9%	54.1%	57.1%	35.5%	13.6%	1.7%	1.3%
④発信力	5.4%	14.9%	38.3%	55.8%	55.0%	27.3%	1.3%	1.9%
⑤創造力	5.2%	21.6%	36.0%	38.6%	51.7%	36.6%	7.0%	3.3%
⑥課題解決力	7.0%	15.6%	42.4%	53.2%	45.9%	28.6%	4.7%	2.6%

レベル4の増加では、すべての評価項目について増加と生徒の変容が見られた。また、10月段階で「できない」と評価した対象生徒が存在している。商業科・会計情報科・服飾科の生徒が連携して、一つの課題に取り組むことで教科横断的な視点が「文化ビジネス」というテーマで結び付くことを体験させることができた。今後、評価を高めるためには、研究テーマの設定・学習プログラムの内容・指導方法についての改善を検討する必要があると考える。

#### 5 イノベーター・リーダーの育成

アンケート結果から京都文化ビジネスリーダー研修に参加したことで、伝統的文化や伝統的産業を結び付ける具体的な方法を「提案する力」は86.4%、「コミュニケーション力」は86.4%、「リーダーとしての役割を向上させる力」は72.8%の生徒が「高まった」と回答した。また、韓国リーダー研修に参加したことで、伝統的文化や伝統的産業を結び付ける具体的な方法を「提案する力」は100%、「コミュニケーション力」は100%、「リーダーとしての役割を向上させる力」は100%の生徒が「高まった」と回答した。韓国研修では、実際に取り組んでいる内容で協働学習を行うことで、斬新な発想や積極的なコミュニケーション力に刺激を受け、研修後の学びを高めることができた。学年が上がることでリーダーとしての意識が高まっていく回答結果であるが、2年生からリーダーとしての意識をさらに向上させることで、学校全体の学びの姿勢を向上させることができると考える。

#### ○実施上の問題点と今後の課題

本校では、研究の目的を達成するために求められる力や資質・能力を明確にし、文化ビジネスエキスパートとしての総合力を育成するための学習プログラムの研究開発と実践活動を行った。3年間の研究開発においては、「伝統的文化・伝統的産業への理解」「コミュニケーション力」「主体的に取り組む力」「協力して取り組む力」を育成することができたと考えられるが、「創造力」「課題解決力」については、目標を達成に至っていない。そのために、SPH研究開発の取組を、教育課程の中でいかに継続させ、学習プログラムや指導方法の改善や実践内容や手段を検討することが必要である。また、「創造力」「課題解決力」を育成するために、「地域と協働した人材教育・育成」の仕組みづくりを行っていく予定である。

